



Tokyo Gakugei University Repository

東京学芸大学リポジトリ

<http://ir.u-gakugei.ac.jp/>

Title	謝辞(fulltext)
Author(s)	小林,明子
Citation	地理学会誌(6): 40-40
Issue Date	1956-04-15
URL	http://hdl.handle.net/2309/118327
Publisher	東京学芸大学地理学会
Rights	

謝 辞

このたび、東京学芸大学地理学会誌第6号といたしまして、わたくしども地理学教室第四期生の卒業論文特集が発刊されることとなり、一同、喜びにたえません。

昭和27年の春、社会科教育を志して大学生活の第一歩を踏み出し、小金井・竹早分校での前期教養過程を終え、昭和29年、更に社会科教育のうちで重要な位置を占める地理教育研究をめざし、世田谷分校における、後期過程を、地理学教室第四期生として無事終了できましたのも、ひとえに、本学地理学教室先生方のおかげと、感謝いたしております。東京学芸大学における唯一の欠点ともいえる、分校制度も、わたくしどもにあつては決して害となることなく、結果として示された同期のまとまりは、同じ地理学研究をめざすがゆえ、当然のことといえましよう。めざす学間の同一ということなくして、分校制度の弊害をのりきることは不可能であつたと申しても、過言でないと思じます。

教養過程において、また世田谷分校における後期2年間において、行なわれました幾度かの現地研究、佐渡での臨地研究を通じてまた日ごろ先生方にいただきました御指導も、昨年12月25日に提出いたしました卒業論文において、小さいながらも、一応の実を結んだものと申せましよう。

しかし、一応の結実をみたのみでなく、その実を更に育ててゆくことこそ、先生方の長年の御恩にお報いできる、唯一の道であると思ひます。また、その実を社会のために役立てること、即ち、今まで受けた教育を、小学校・中学校あるいは、高等学校における地理教育・社会科教育として、実践してこそはじめて立派に成長させることができたと言ふことができましよう。教育の道は、決して安易な道とは申せません。卒業にあたりまして、4年間の結晶であるこの実を、教育の場において育ててゆくことを、お約束いたします。

紙面の都合上、各自要旨をのせるだけが精一ぱいですので、ここにまとめまして、先生への御礼のことばといたす次第です。

昭和31年3月20日

小 林 明 子